

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育てる
めざす子ども像
よく考える子・思いやりのある子・たかましい子

2 目指す姿(学校像・児童像・教師像)

めざす学校像
子どもが意欲的に学び、豊かな人間関係を築く学校
子ども・保護者・地域の期待に応える、開かれた学校
教職員自ら、創意・工夫を重ねる学校

3 現状と課題

本校は安芸区の行政・文化各機関が置かれる校区にあり、区内の中核的な学校である。総合的な学習の時間や教科の学習ではゲストティーチャーが参画したり、民生面でも積極的に支援するなど、地域の教育力がある。しかし、一方で、全国学力・学習状況調査や「基礎・基本」定着状況調査において、年度によっては県平均通過率を下回るなど、基礎・基本の学力については継続して課題がある。また、経験年数の短い教員が多く、授業力・生徒指導力などの向上も課題として挙げられる。

4 目標

〔中期経営重点目標〕 「基礎・基本」定着状況調査では、国語科・算数科の平均通過率を市平均通過率以上にし、通過率60%以上の児童の割合も市平均以上にする。また、全国学力・学習状況調査(A問題・B問題)の平均正答率を全国平均以上とする。		〔評価指標〕 全国学力・学習状況調査の平均正答率、「基礎・基本」定着状況調査の平均通過率・60%以上の通過率の割合
短期経営重点目標(1年目)	評価指標	主な具体的方策
国語科の物語文の学習指導において、単元構成や学習活動の工夫等に焦点を当てて授業改善を図り、読みの力の育成を図る。	物語文における読みの力が向上したと実感できる児童・教職員の割合(年度末アンケート調査で児童・教職員ともに80%以上)	学級担任全員が物語文を対象とした授業を公開し、授業研究を深める。(ブロック別の低・中・高学年の公開授業において広島大学教授・広島大学附属小教官を招請し、継続性のある指導を受け、授業改善を図る。) 授業後の研究協議会においては、ワークショップ形式の協議会を通じて協議内容を焦点化し、授業観察力・授業分析力を高める。(公開授業のビデオ視聴による振り返りと協議・ワークショップ形式の協議会により授業観察力・授業分析力を確かにし、自己の授業改善に生かすようにする。) 年間3回の物語文の授業を見通した年間指導計画の立案・実施、物語文における学習用語等の系統的定着を図る。(年間3回の物語文の学習で、それぞれの学習で「どのような読みの力」をつけるのかを明確にして指導を重ねる。)
「あいさつ100%」の徹底を図り、自主的にあいさつできる児童を育てる。	登下校時や学校内でのあいさつを自主的にしたと振り返ることのできる児童・保護者・教職員の割合(年度末アンケート調査で児童・保護者・教職員ともに90%以上)	児童会の自治的な活動を通じてあいさつ運動を推進し、進んであいさつをする意識を高め、実践力を向上させる。(あいさつ標語の募集、振り返りカードの実践化、あいさつの啓発運動等を推進する。) 教職員自らあいさつを実践し、児童の自主的にあいさつをする力を高めるようにする。(あいさつの意義やあいさつの様子などについても登校指導・学級指導・朝会などで話をする事で、児童の意識を高め、実践力を高める。) 学区内の住民や、学区内を通り登校する生徒達によるあいさつが交わされる環境づくりに務め、児童のあいさつする力を高める。(あいさつ道路の創設、教職員による地域住民や外来者等への積極的なあいさつを進める。)
地域の教育力を積極的に活用して豊かな教育活動を推進し、地域に開く船越小学校を構築する。	地域の教育力を活用した価値ある教育活動をしたとする児童・保護者・教職員の割合(年度末アンケート調査で児童・保護者・教職員ともに80%以上)	各教科および総合的な学習の時間で、ゲストティーチャーとして地域の方を招き、各学年とも年1回以上の「地域の教育力を活用した教育活動(授業)」を推進する。(ゲストティーチャーを通じて、校内の教職員、書籍やネットなどから学ぶことのできない生きた学習体験を成立させる。) 「地域の教育力を活用した教育活動(授業)」において、学習指導要領の目標と学習活動を結びつけ、「価値ある学び(目標の明確な学び)」を生み出すようにする。(学習指導要領の目標と、学習活動と学習内容が結びついた授業づくりを推進する。) 「地域の教育力を活用した教育活動(授業)」を通じて学んだことを地域に発信することを通じて、双方向の学びを構築する。(「地域の教育力を活用した教育活動(授業)」で学んだことを再構成し、地域に発信する学習を成立させる。)
運動に意欲的に取り組み、体力を向上させる活動に取り組む。	外遊びに親しみ、運動に意欲的に取り組んだと振り返る児童・教職員の割合(年度末アンケート調査で児童・保護者・教職員ともに80%以上)	休憩時間(とくに大休憩)での外遊びを促し、体をつかった遊びに親しむようにする。体育委員会の活動(長縄大会・リレー大会・ドッジボール大会の企画・運営、遊具の貸し出し)、外遊びアンケートの実施と活用等を通じて、グラウンドでの遊びを進んでさせる。 体力アップハンドブックの活用を通して、自己のめあて達成に向けて運動に取り組ませる。また、体力アップハンドブック努力賞受賞を啓発し、自ら運動に親しむようにさせる。